

## 第 27 回 癌治療増感研究会 抄録【記載例】

演題名： 脈絡膜悪性黒色腫に対する重粒子線治療の長期成績

### 筆頭演者情報

[氏名] 若月 優

[所属機関] 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 QST 病院

### 共著者情報 (最大 10 名まで)

[氏名]

牧島弘和 1)、2)、野元昭弘 1)、廣嶋悠一 1)、石川 仁 1)、辻 比呂志 1)、溝田 淳 3)

[所属機関]

1. 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 QST 病院
2. 筑波大学附属病院 放射線腫瘍科
3. 帝京大学附属病院 眼科

抄録本文 (全角 1000 文字以内、ただし図や表を使用する場合は 200 文字換算)

【目的】、【方法】、【結果】、【結語】の順で記載してください。

【目的】当院で 2001 年から行われてきた脈絡膜悪性黒色腫に対する重粒子線治療の長期経過観察による治療成績を報告する。

【方法】QST 病院(旧放医研において)2001 年 4 月から 2020 年 4 月に当院で重粒子線治療が行われた脈絡膜悪性黒色腫患者 254 例を対象とした。治療方法・線量は治療法の改良に伴い、2001 年 4 月-2005 年 8 月は 1 門照射で 60-85 Gy (RBE)/5fr、2008 年 9 月—2015 年 4 月は 2 門照射で 60-70 Gy (RBE)/5fr、2015 年 5 月-2018 年 3 月は 2 門照射で 64-68 Gy (RBE)/4fr、2018 年 4 月以降は 2 門照射で回転ガントリー・スキヤニング照射を用いて 68Gy (RBE)/4fr で行われた。

【結果】年齢中央値が 55 歳(15-86 歳)、男/女:119 例/135 例であった。腫瘍径・厚みの中央値がそれぞれ 11.2mm、7.6mm 乳頭浸潤 59/254 例、毛様体浸潤 38/254 例で認められた。症例の病期(AJCC7 版)は I/IIA/IIIB/IIIA/IIIB 期が 43/90/83/35/3 例であった。観察期間の中央値が 66 か月であり、5 年/10 年の局所制御率、全生存率、無再発生存率がそれぞれ、95%/95%、89%/75%、78%/61%であった。遠隔転移発生割合は 5 年/10 年で 25%/35%であり、転移部位としては肝臓が最多(76%)であった。5 年および 10 年の Grade2 以上の緑内障発症率はそれぞれ 25%、29%であり、5 年および 10 年の眼球温存率は 93%、93%であった。

【結語】脈絡膜悪性黒色腫に対する重粒子線治療は、良好な全生存率・局所制御率・眼球温存率を示された。